

経麗の記念塔

時が経ち、モノは古びる。しかし、その全てが悪という訳ではない。

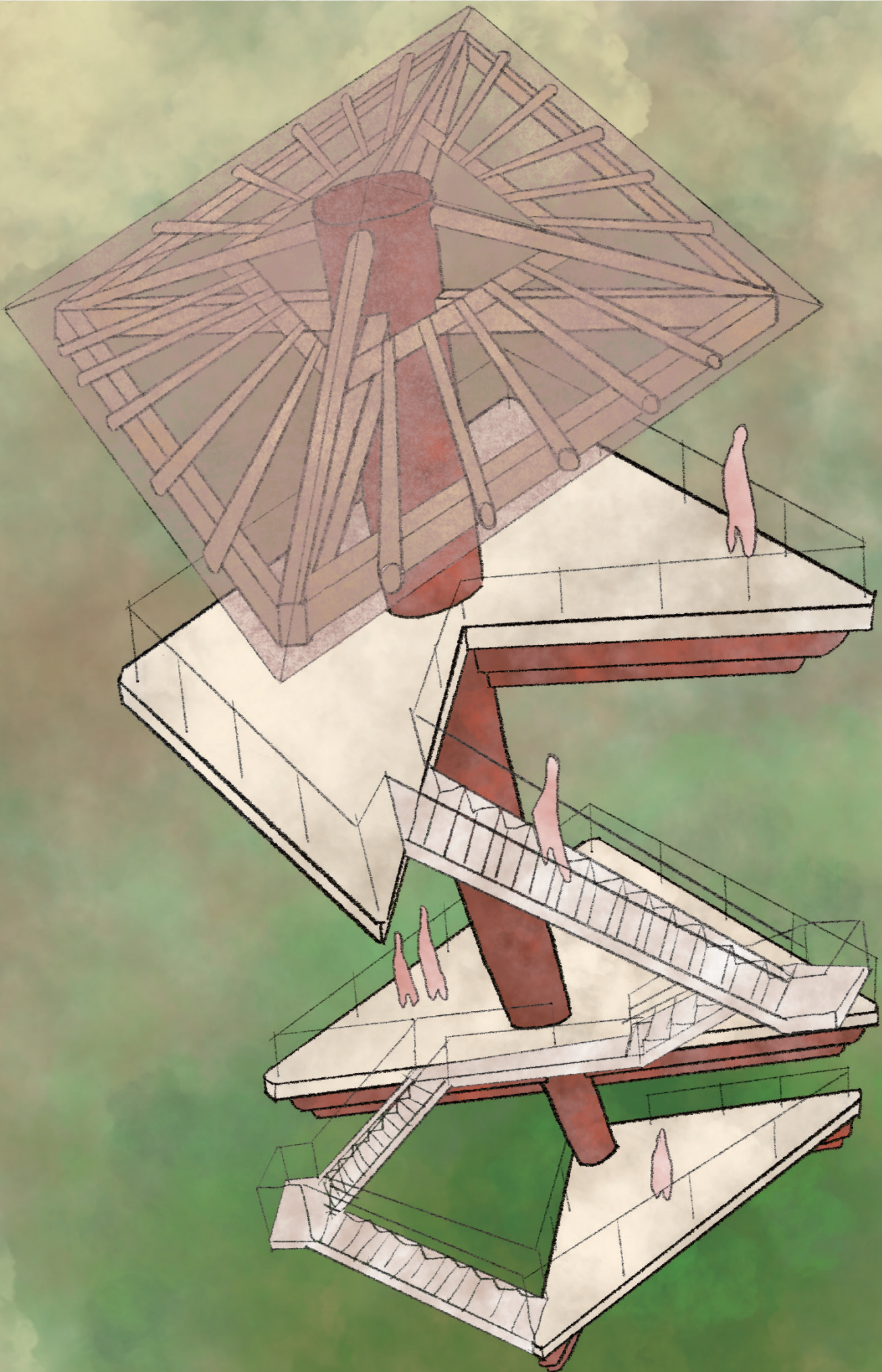
今日ここに

「経麗」

という手法が誕生した。

古きモノにも「経年劣化」では括れない付加価値のようなものがある。

それは日本人の共通した感覚としてあるだろう。



東大寺の柱や梁などで見られる色褪せた趣は、過去の歴史を感じる力強さがある。そこで、経麗をこの先の未来で体感するための展望台を設計した。中心の合成柱と梁は年月が経つにつれて、個性が際立っていく。そして、展望台から見える景色も移り変わっていく。

過去の記憶が刻まれていき、風景と共に未来へと紡がれ、これまで言い表せなかった美しさを我々は分かち合う。